

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900342		
法人名	NPO法人咲風会		
事業所名	グループホーム空		
所在地	三好市池田町白地ウマバ456		
自己評価作成日	平成28年1月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>碧い空。</p>
-------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、季節の移ろいを感じることでできる里山に位置している。周囲には、棚田の茶畑等の広がる自然豊かな環境を楽しむことができる。建物の前庭からは吉野川水域が一望でき、里山の暮らした人々の温かさを感じることでできる昔懐かしい風景がある。食事は、準備から調理までのすべてを手作りで行っており、温かい料理を提供している。職員間のチームワークが良く、また看護師を常勤職員として配置するなど、利用者の健康管理や急変時にも対応することのできる体制をとっている。また、職員の定着率が良く、利用者職員は馴染みの関係を築いており、利用者の穏やかで安心できる生活に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	12年間走り続けてきた	事業所では、“地域に密着した施設づくり・個性を尊重し、豊かで輝くような暮らしを支援する”という理念を掲げている。職員は、利用者一人ひとりと向き合う時間を大切にしている。利用者の思いの把握に努め、その人らしく生活できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	12年間地域に根差し、事業を維持してきた	事業所では、利用者と職員で地域の新年会やお祭りに出かけ楽しんでいる。また、積雪時には、事業所で準備している路面凍結防止剤を要所に散布するなどして、地域住民の生活道路の確保に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	12年間地域と関わり続けてきた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	良い意見、悪い意見、の見極め	平成27年4月に運営推進会議を計画したが、関係者との日程調整が困難であるなどの理由から、延期となっており、現在も開催するまでには至っていない。	日頃の地域住民との関わりの際に、事業所の運営について意見を聞くなどし、少しずつでも地域の協力を得ることができるよう取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	互惠関係	管理者は、困難事例や疑問点について行政の窓口相談して情報交換を行うなどし、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族のご理解を得た上で	事業所として身体拘束禁止マニュアルを作成している。職員は研修会や日頃の業務を通じて、これらの必要性を理解し実践している。玄関は、夜間帯のみ施錠しており、日中は自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉に注意したい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	不勉強を反省		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明、施設案内には45分以上をかける。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置	家族の来訪時や電話連絡等の機会に意見や要望を出してもらっている。事業所内に意見箱を設置し、つねに改善していこうとする姿勢が見受けられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	真面目な職員に恵まれ感謝している	つねに代表者は、職員が自由に意見や提案ができる体制をとっている。職員から出されたアイデアは、迅速に業務に反映するなどして、サービスの室の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	他所に行かれかねない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	処遇加算と連動		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	池田博愛会の支援が大きい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症患者の考えを汲み取るのは容易でない		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族優先		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームは単独型		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	起床から就寝まで一緒		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絆の維持		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	独楽吟	利用者の重度化の傾向に伴い、積極的な外出は困難になりつつあるが、居室に写真や手紙等を掲示するなどの工夫を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人生を楽しく		

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム空		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	19に同じ				
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は毎日認知症という病と向き合う	認知症の進行や重度化に伴い、意思の表出が困難になりつつあるなか、職員は利用者との会話や些細な行動の変化等から意向を把握して支援するようにしている。しかし、把握した意向等を踏まえた介護計画の見直しやモニタリングは十分ではない。		モニタリング記録を整備し、現状に応じた介護計画の見直しを行うよう期待する。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の大切さ、重みを理解				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	継続は力なり。毎日運動している				
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	書面移行が遅れがち	担当職員が中心となってカンファレンスを行っており、全職員で意見交換や評価を行い情報を共有し、介護計画に反映している。職員から出された提案で介護計画書の様式を変更するなど、状況に応じた工夫が見受けられる。しかし、計画の見直しに当たっては、家族や関係者の意向を十分に反映するまでには至っていない。		利用者の心身状態に変化があった場合は、そのつど、家族や関係者と密に連絡をとりあつて計画の変更をすることが望まれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	書面作成が重荷				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	即判断、即行動				



自己	外部	項目	自己評価	グループホーム空		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当ホームの理念である				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	●●先生、山の上までの往診に感謝です	入居後は、利用者全員が協力医療機関を主治医とし、往診を受けている。他の医療機関を受診する際には、事業所の職員が送迎などの支援を行っている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に恵まれている。満10年ご苦労様				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	県立病院は1か月以内に帰荘となるが、一般病院は？				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望があれば看取りまで実施する	事業所では“重度化した場合の対応に係る指針”を作成している。利用者の状況変化に応じて家族と話し合い、事業所として可能な限り支援する旨を伝えている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師以外への浸透に努力				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	場所、順路、方法を体にしみ込ます	地域住民の高齢化などに伴い、十分な協力体制を築熊手には至っていないが、毎月、自主的に避難訓練を実施している。しかし、消防署や消防団の協力を得て定期的な訓練を実施するまでには至っていない。	今後は、災害時の避難場所や救援体制の確認、日中と夜間を想定した避難訓練、また備蓄等の整備が望まれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症患者の心の解剖に努める	事業所では、多くの利用者が長期間利用していることもあり、職員とも馴染みの関係にある。職員は、つねに利用者と同じ高さの目線で目を合わせ、ゆっくりと話しかけるようにしており、トイレ誘導や服薬の際の声かけも一人ひとりに配慮して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	これも認知症を深く理解することが命題		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	左様に務めます		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、パジャマから日常着へ		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材・米は最高の物を提供している	近隣住民から食材の差し入れをもらうことがあり、職員が調理している。キザミ食やとろみをつけるなどして、利用者が食べやすい形態に加工している。全介助が必要な方には、利用者のペースで食べることができるよう時間をかけ支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水が諸々の根源なのは知っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩2回		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ代削減、歩行訓練の意味でも。自室にトイレは置かない	多くの利用者が介助を必要としており、オムツやリハビリパンツを使用している。日中は、利用者のペースで時間を見計らって誘導することで、利用者が行きたいときにタイミング良く支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今のところ薬に頼らない		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	太陽光と湧水により常時入浴可能。	原則として週2日の入浴となっているが、希望に応じて毎日の利用もできる。尿失禁や体調の変化見受けられた際などには、臨機応変に対応するようにしている。また、就寝前には、利用者全員が下半身のシャワー浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	広い住環境により可能である		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と歩調を合わせ		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	子供を連れてくるのも良策		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに外出しているが、重度の方に苦労する	以前より外出の機会が少なくなってきたが、地域の恒例行事に出かけるなどの工夫を行っており、なるべく日常的に外出することができるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム空 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症患者の金銭保持は如何なものか。 忘却。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキ、電話は大いに利用価値ある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	45に同じ	玄関を入ると、飾り戸棚や黒電話を設置している。食堂には、雛人形を置いている。掲示板には、行事の写真や利用者の作品を掲示するなどしており、季節感に配慮して空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同上		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	同上	事業所では、利用者一人ひとりの好みの物を居室に持ち込んでもらっている。たくさんの物は持ち込まれていないが、写真を飾ったり、服をかけたりして、その人らしい空間づくりを支援している。利用者安心して暮らすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一。段差は悪なものか？		